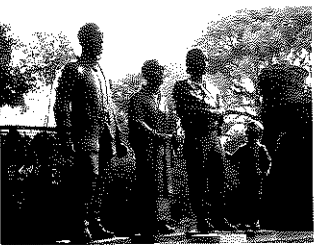


# 「出征を見送る家族の像」

## 除幕清祓式

佐藤 正 陸自78

10月16日（金）、靖國神社の外苑において、「出征を見送る家族の像」の除幕清祓式が執り行われました。



「出征を見送る家族の像」

この像は、一般財団法人徳島県遺族会の奉納によるもので、国のために尊い命を捧げられた御祭神の家族が、我が子、夫、父、兄弟等を見送る際に抱かれた「無事の帰還を祈る愛慕の情」を後世に伝えるべく、彫刻家・鎌田邦宏氏により製作されたものです。なお、同型の像は、徳島縣護國神社にも奉納されているとのことだす。

除幕清祓式は、開式の辞、靖國神社宮司挨拶、除幕、千羽鶴奉納、修祓、清祓、来賓紹介、祝電披露、全国知事会会長・徳島県知事挨拶、徳島県遺族

会会長挨拶、閉式の辞の次第で、厳粛のうちに執り行われました。



神職による修祓（天幕の中はご来賓）

像は、出征兵士を見送る父、母、幼子を抱えた妻、子供からなるブロンズ製のものです。その大きさは、父は185cm、母は160cm、妻は175cm、子供は110cmです。4体合わせて、約1トンの重量です。像を支える台座は真壁石で造られています。

出征兵士の無事の帰還を切に祈る、家族の真剣な眼差しが、見る者の胸にしみる深く静かな作品です。当時、日本全国津々浦々で、この像のような光景が見られたのでしよう。

像は、靖國神社の大鳥居（九段下駅から向かうと、最初の鳥居）の右側手前に建っています。そこから、外苑東側沿いの「慰霊の庭」には、全国47都道府県の土で作られた「さくら陶板」も設置されていますので、併せてご覧学されますことをお勧めいたします。